

外国語学部

学位プログラム： 外国語学

授与する学位： 学士（言語・文化学）

教育目標

大阪大学及び外国語学部の教育目標のもと、学位プログラム「外国語学」では、「言語とそれを基底とする文化一般について理論と実際にわたって教授研究し、国際的な活動をするために必要な広い知識と高い教養を与え、言語を通じて世界の諸地域に関する深い理解を有する有為な人材を養成する」という学部の教育理念に従って、次のような学識と能力を身につけた人材を養成することを目指します。

○高度な専門性と深い学識

- ・ 専攻言語に関する深い知識・技能を有している。
- ・ 専攻言語及びそれを基底とする文化や社会に関する総合的かつ専門的な学識を有し、課題解決のために活用できる。

○教養

- ・ 専攻言語地域だけでなく、世界規模での様々な事象に関する幅広い知識を有している。
- ・ 地域研究関連の学問分野の方法論を理解し、様々な事象を多角的に分析することができる。

○国際性

- ・ 専攻言語・専攻言語地域に関連する他の言語を学び、それを活用して複数の社会・文化を理解できる。
- ・ 英語の高い運用能力を身につけ、国際的な活動ができる。
- ・ 異文化を相対化して理解する態度を培い、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる。

○デザイン力

- ・ 専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる。
- ・ 専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる。

外国語学部では、学部教育目標を簡潔に表した「言語を通して文化を学び、文化を通して言語を学ぶ」(Culture Through Language, Language Through Culture)と「言葉を究めて世界へはばたく」(Let Language Be Your Wings To The World)をモットーに、言語運用能力の

みならず世界各地の文化や社会を幅広く理解する学識を身につけた、社会に貢献できる優れた人材の育成に取り組んでいます。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学及び外国語学部のディプロマ・ポリシーのもと、「言語とそれを基底とする文化一般について理論と実際にわたって教授研究し、国際的な活動をするために必要な広い知識と高い教養を与え、言語を通じて世界の諸地域に関する深い理解を有する有為な人材を養成する」という学部の教育理念のもとで、所定の期間在学し、大阪大学外国語学部履修規程に定める所定の単位を修得した以下の基準を満たす学生に、学士（言語・文化学）の学位を授与します。

○高度な専門性と深い学識

- ・専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。
 - －読む・書く・聴く・話す、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。
- ・専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基底とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。

○教養

- ・専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。

○国際性

- ・専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。

○デザイン力

- ・専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。
- ・専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学及び外国語学部のカリキュラム・ポリシーのもと、1・2年次で身につけた専攻語と英語等の高度な言語運用能力を基盤として、3・4年次には世界各地の多様な文化に関する総合的かつ専門的な知識を身につけるようにカリキュラムを構成します。

<教育課程の編成の考え方>

学位プログラム「外国語学」では、カリキュラムを1・2年次課程と3・4年次課程で大きく分けています。1・2年次課程では、主に全学教育推進機構が提供する「教養教育系科目」を学びつつ、これと平行して「専門教育系科目」として基盤となる専攻語等の高度な言語運用能力を身につけ、同時に当該言語が使用される地域に関する概論を学びます。2年次後半からは、「高度教養教育科目」ならびに「国際性涵養教育系科目」としての「兼修語学」を学びます。3・4年次課程では、「専門教育系科目」を中心に、その言語運用能力を基盤として世界各地の多様な文化に関する総合的かつ専門的な知識を身につけることができるようなカリキュラム構成となっています。

<学修内容及び学修方法>

- ・専門教育では、高度な言語運用能力を身につけることを目標に、体系的な4年一貫教育を実施し、1・2年次課程ではネイティブスピーカーの授業を含む少人数クラスの専攻語科目を必修とします。これは外国語学部での学びの基盤となるものです。実習形式で「読む・書く・聴く・話す」の4技能の習得を目指します。

- ・専門教育の1・2年次課程においては、各年次5科目10単位（ロシア語は6科目12単位）の修得を進級の要件とします。また、専攻語科目では、語学教育をより充実させ、社会的にも客観的で透明性のある教育内容にすることを目標に、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について到達度目標を専攻・年次ごとに定め、それを個々の授業のシラバスに反映させます。

- ・専門教育の2年次課程においては、世界各地の言語・文学・文化・社会等に関する総合的かつ専門知識の基礎となる概説科目を開設します。主に講義形式で行います。

- ・専門教育の3・4年次課程においては、より高度な専攻語科目を配置します。これらは主に演習形式で行います。また、世界各地の言語・文学・文化・社会等に関する総合的かつ専門知識を深めるために、多様な専攻科目（講義・演習）を開設します。

- ・2～4年次課程においては、幅広い知識と高い教養を身につけるために、学部共通科目等の関連科目を提供します。

- ・4年次課程では、4年間の言語学習及び言語を基底とする世界各地の文化・社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけた成果として、卒業論文を執筆・提出することを必修とします。

- ・1年次課程の全学共通教育では、「学問への扉」、「基盤教養教育科目」、「情報教育科目」、「専門基礎科目」、「健康・スポーツ教育科目」等の履修を通して、幅広く深い教養と総合的な判断力

を培い、豊かな人間性を育むことを目的としています。

- ・国際性涵養教育系科目としての「総合英語」では、「読む・書く・聴く・話す」の4技能をしっかりマスターできるように、対面授業を行います。また、「実践英語」ではe-learningにより英語運用能力のスキルアップができるプログラムを用意しています。

- ・2年次以降の課程では、英語をはじめとする外国語学部独自の多彩な「兼修語学科目」及び「研究外国語科目」を開設します。これらの科目は演習・実習形式で行われます。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、どのような性質の科目であるかによって評価の方法が異なります。具体的には下記のような評価方法を用います。

- ・実習科目：小テスト、毎週の課題、定期試験等の客観的指標を用いて評価します。

- ・講義・演習科目：レポート提出、プレゼンテーション実施、定期試験等によって評価します。

いずれの形式の授業であっても、各授業のシラバスに明記された学習目標を達成できているかどうかについて複数の観点から総合的に評価します。

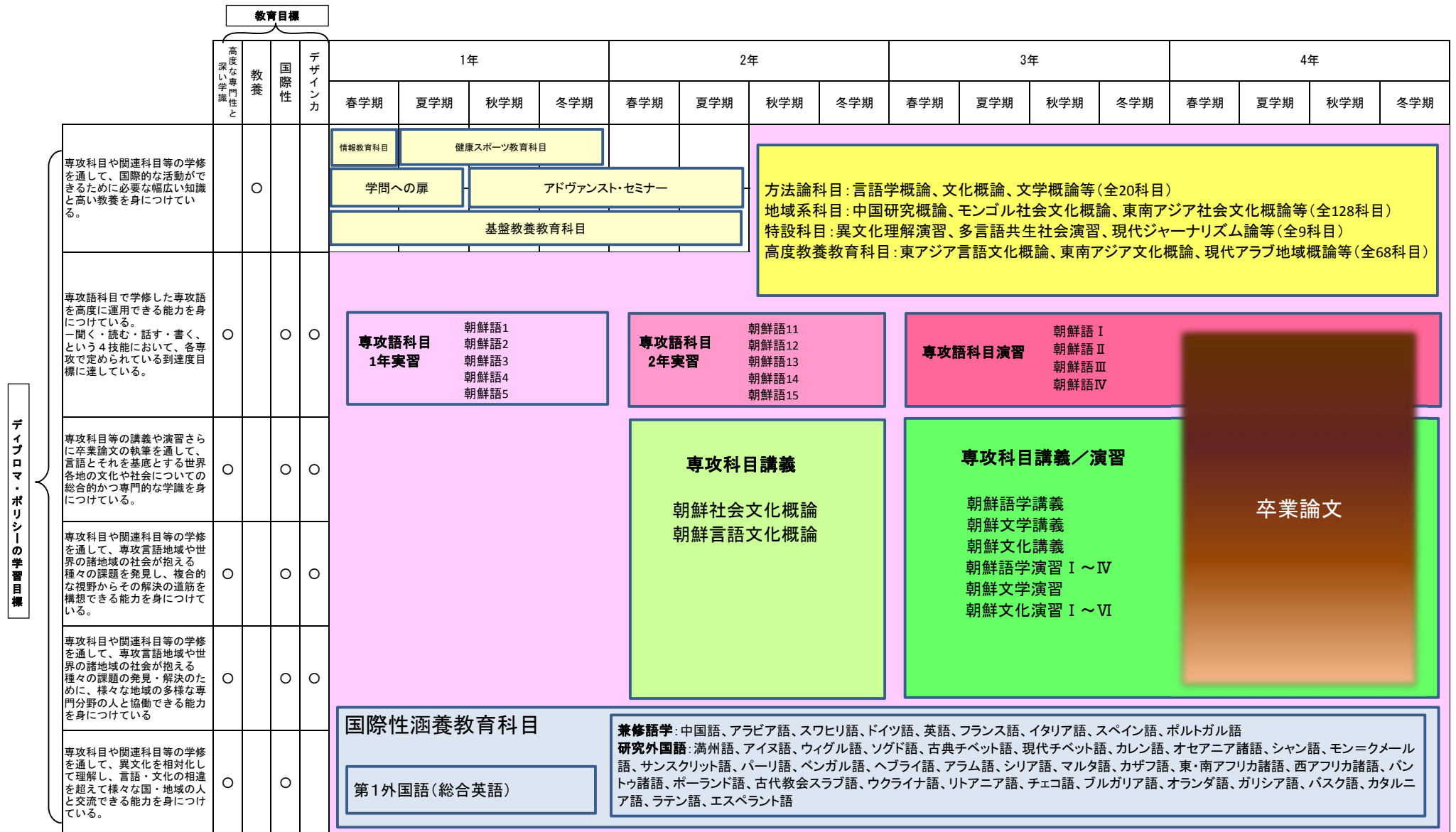
カリキュラムマップ <中国語>

教育目標					1年				2年				3年				4年																
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識と	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期													
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全127科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全69科目）																							
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー																										
					基盤教養教育科目																												
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習				中国語1 中国語2 中国語3 中国語4 中国語5				専攻語科目 2年実習				中国語11 中国語12 中国語13 中国語14 中国語15				中国語16 中国語17 中国語18 中国語19 中国語15				専攻語科目演習				中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 中国語Ⅴ 中国語Ⅵ 中国語Ⅶ 中国語Ⅷ 中国語Ⅷ 中国語Ⅸ 中国語Ⅹ			
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基底とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 東アジア言語文化概論 中国研究概論				専攻科目講義／演習 中国語学講義Ⅰ～Ⅱ 中国文学講義Ⅰ～Ⅱ 地域秩序論 中国語学演習Ⅰ～Ⅲ 中国文化演習Ⅰ～Ⅱ 中国社会演習 中国語学特別演習Ⅰ～Ⅲ 中国文学特別演習Ⅰ～Ⅱ				卒業論文																			
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																												
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている	○		○	○																												
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目				兼修語学：朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、バーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語																							
				第1外国語（総合英語）																													

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <朝鮮語>



【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <モンゴル語>

教育目標					1年				2年				3年				4年						
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期			
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、東南アジア言語概論、東南アジア社会文化概論等（全104科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全69科目）													
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー																
					基盤教養教育科目																		
専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習 モンゴル語1 モンゴル語2 モンゴル語3 モンゴル語4 モンゴル語5				専攻語科目 2年実習 モンゴル語11 モンゴル語12 モンゴル語13 モンゴル語14 モンゴル語15				専攻語科目演習 モンゴル語Ⅰ モンゴル語Ⅱ モンゴル語Ⅲ モンゴル語Ⅳ モンゴル語Ⅴ				卒業論文						
専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基盤とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 モンゴル社会文化概論 アルタイ諸語概論				専攻科目講義／演習 モンゴル語学講義Ⅰ～Ⅱ モンゴル文学講義Ⅰ～Ⅱ モンゴル社会講義 モンゴル遊牧地域講義 中央アジア史講義 モンゴル語学演習Ⅰ～Ⅱ モンゴル文学演習Ⅰ～Ⅲ モンゴル社会演習Ⅰ～Ⅱ モンゴルフィールドワーク演習														
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																			
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている	○		○	○																			
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目 第1外国語（総合英語）				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、パーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語														

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基盤とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <インドネシア語>

教育目標																				
高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	1年				2年				3年				4年				
				春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	
ディプロマ・ポリシーの学習目標	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、南アジア文化概論等（全118科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全61科目）										
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	専攻語科目 1年実習				専攻語科目 2年実習				専攻語科目演習				卒業論文			
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	専攻科目講義				専攻科目講義／演習											
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○																
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。	○		○																
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○	国際性涵養教育科目				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、バーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語												
				第1外国語（総合英語）																

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

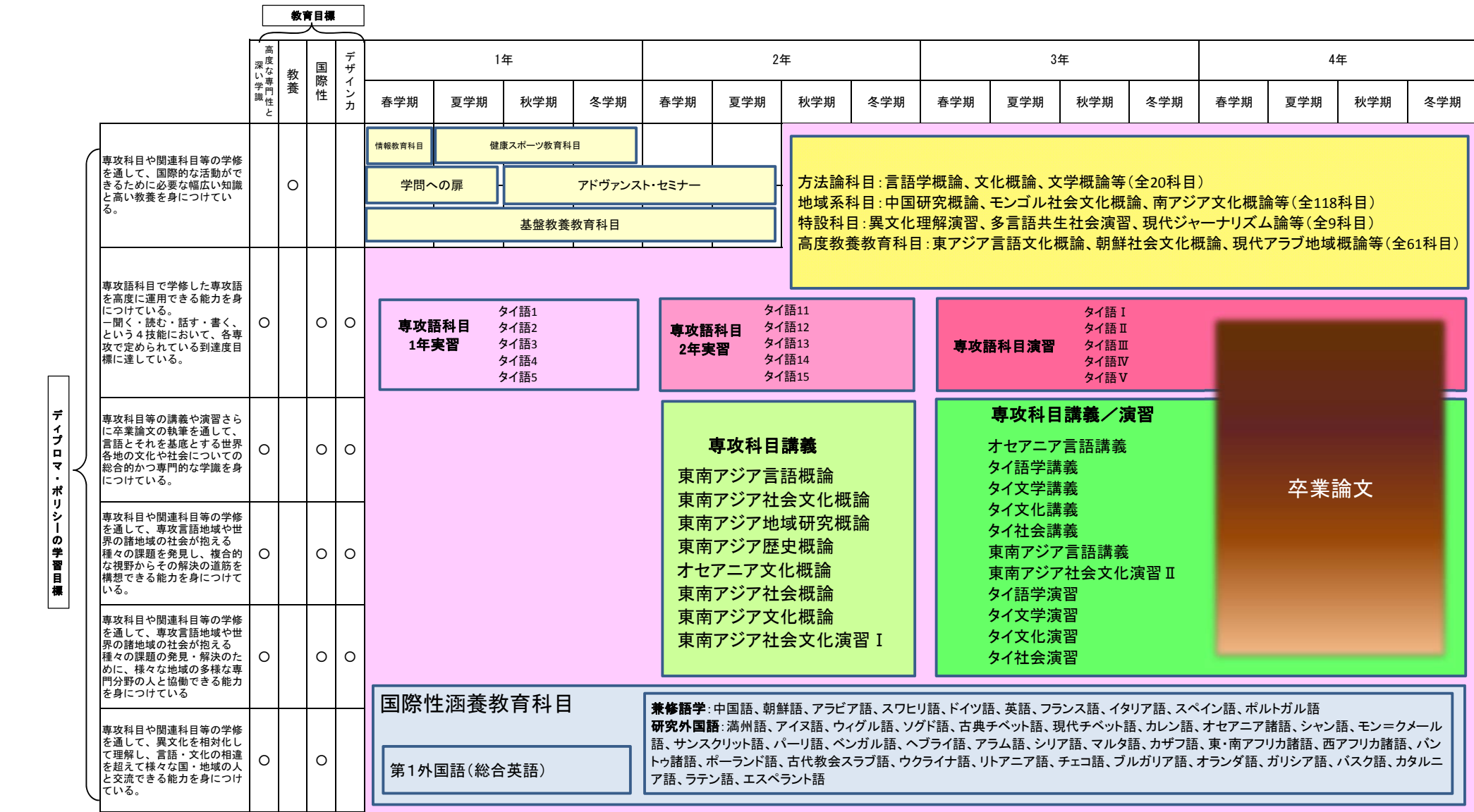
カリキュラムマップ <フィリピン語>

教育目標																				
高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	1年				2年				3年				4年				
				春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	
ディプロマ・ポリシーの学習目標	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、南アジア文化概論等（全118科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全61科目）										
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー													
					基盤教養教育科目															
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	専攻語科目 1年実習 フィリピン語1 フィリピン語2 フィリピン語3 フィリピン語4 フィリピン語5				専攻語科目 2年実習 フィリピン語11 フィリピン語12 フィリピン語13 フィリピン語14 フィリピン語15				専攻語科目演習 フィリピン語Ⅰ フィリピン語Ⅱ フィリピン語Ⅲ フィリピン語Ⅳ				卒業論文			
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基盤とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	専攻科目講義 東南アジア言語概論 東南アジア社会文化概論 東南アジア地域研究概論 東南アジア歴史概論 オセアニア文化概論 東南アジア社会概論 東南アジア文化概論 フィリピン言語演習 東南アジア社会文化演習Ⅰ				専攻科目講義／演習 オセアニア言語講義 フィリピン言語講義Ⅰ～Ⅳ フィリピン文学講義 フィリピン言語特別演習Ⅰ～Ⅱ フィリピン社会演習Ⅰ 東南アジア社会文化演習Ⅱ											
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○																	
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。	○		○	国際性涵養教育科目 第1外国語（総合英語） 兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、バーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語																
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○																	

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基盤とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <タイ語>



【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <ベトナム語>

ディプロマ・ポリシーの学習目標

教育目標					1年				2年				3年				4年			
	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。		○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、南アジア文化概論等（全118科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全61科目）									
専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習 ベトナム語1 ベトナム語2 ベトナム語3 ベトナム語4 ベトナム語5				専攻語科目 2年実習 ベトナム語11 ベトナム語12 ベトナム語13 ベトナム語14 ベトナム語15				専攻語科目演習 ベトナム語Ⅰ ベトナム語Ⅳ ベトナム語Ⅱ ベトナム語Ⅴ ベトナム語Ⅲ				卒業論文			
専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基底とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 東南アジア言語概論 東南アジア社会文化概論 東南アジア地域研究概論 東南アジア歴史概論 オセアニア文化概論 東南アジア社会概論 東南アジア文化概論 東南アジア社会文化演習Ⅰ				専攻科目講義／演習 オセアニア言語講義 東南アジア言語講義 ベトナム語学講義 ベトナム文学講義 ベトナム文化講義 東南アジア社会文化演習Ⅱ ベトナム文学演習 ベトナム言語演習											
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている	○		○	○																
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目 第1外国語（総合英語）				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、パーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語											

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <ビルマ語>

教育目標					1年				2年				3年				4年				
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、南アジア文化概論等（全118科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全61科目）											
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー														
					基盤教養教育科目																
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習				専攻語科目 2年実習				専攻語科目演習				卒業論文			
	ビルマ語1 ビルマ語2 ビルマ語3 ビルマ語4 ビルマ語5				ビルマ語11 ビルマ語12 ビルマ語13 ビルマ語14 ビルマ語15				ビルマ語Ⅰ ビルマ語Ⅱ ビルマ語Ⅲ ビルマ語Ⅳ												
	専攻科目講義				専攻科目講義／演習																
	東南アジア言語概論 ビルマ社会講義Ⅰ～Ⅱ 東南アジア社会文化演習Ⅰ 東南アジア地域研究概論 東南アジア社会文化概論 東南アジア歴史概論 オセアニア文化概論 東南アジア社会概論 東南アジア文化概論				ビルマ語学講義Ⅰ ビルマ文学講義Ⅰ～Ⅱ ビルマ文化講義Ⅰ チベット・ビルマ語学講義 オセアニア言語講義 東南アジア社会文化演習Ⅱ ビルマ語学演習Ⅰ～Ⅱ ビルマ文学演習Ⅰ ビルマ文化演習Ⅰ ビルマ社会演習Ⅰ チベット・ビルマ語学演習Ⅰ～Ⅱ																
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○																
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																	
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。	○		○	○																	
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、バーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語				第1外国語（総合英語）								

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <ヒンディー語>

教育目標																								
高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	1年				2年				3年				4年								
				春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期					
ディプロマ・ポリシーの学習目標	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全126科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全70科目）														
					学問への扉	アドヴァンスト・セミナー																		
					基盤教養教育科目																			
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習 ヒンディー語1 ヒンディー語2 ヒンディー語3 ヒンディー語4 ヒンディー語5				専攻語科目 2年実習 ヒンディー語11 ヒンディー語12 ヒンディー語13 ヒンディー語14 ヒンディー語15				専攻語科目演習 ヒンディー語Ⅰ ヒンディー語Ⅱ ヒンディー語Ⅲ										
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基盤とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 南アジア文化概論															専攻科目講義／演習 インド文化史講義Ⅰ～Ⅱ 南アジア文化講義 南アジア政治経済講義Ⅰ～Ⅱ ヒンディー語学演習Ⅰ～Ⅲ ヒンディー文学演習Ⅰ～Ⅳ 南アジア語学演習Ⅰ～Ⅳ 南アジア文化演習Ⅰ～Ⅳ 南アジア政治経済演習Ⅰ～Ⅱ 南アジア歴史演習 ウルドゥー語学演習Ⅰ～Ⅱ ウルドゥー文学演習Ⅰ～Ⅴ			
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○	卒業論文																			
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。	○		○	○																				
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目 第1外国語（総合英語）				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、パーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語															

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基盤とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

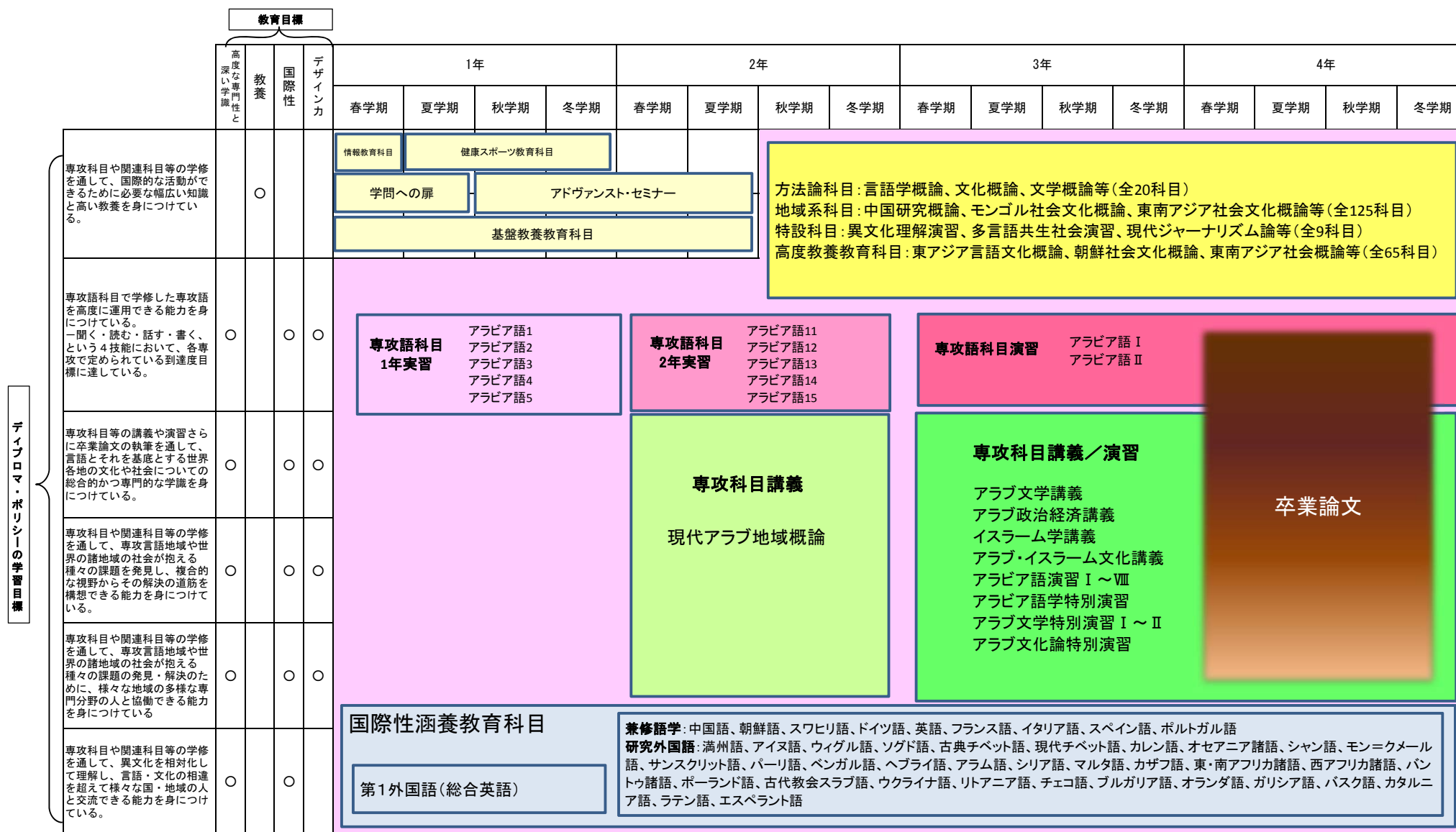
カリキュラムマップ <ウルドゥー語>

教育目標					1年				2年				3年				4年			
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全126科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全70科目）										
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー													
					基盤教養教育科目															
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習 ウルドゥー語1 ウルドゥー語2 ウルドゥー語3 ウルドゥー語4 ウルドゥー語5				専攻語科目 2年実習 ウルドゥー語11 ウルドゥー語12 ウルドゥー語13 ウルドゥー語14 ウルドゥー語15				専攻語科目演習 ウルドゥー語Ⅰ ウルドゥー語Ⅱ ウルドゥー語Ⅲ						
専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 南アジア文化概論				専攻科目講義／演習 インド文化史講義Ⅰ～Ⅱ 南アジア文化講義 南アジア政治経済講義Ⅰ～Ⅱ ウルドゥー語学演習Ⅰ～Ⅱ ウルドゥー文学演習Ⅰ～Ⅴ 南アジア語学演習Ⅰ～Ⅳ 南アジア文化演習Ⅰ～Ⅳ 南アジア政治経済演習Ⅰ～Ⅱ 南アジア歴史演習 ヒンディー語学演習Ⅰ～Ⅲ ヒンディー文学演習Ⅰ～Ⅳ											
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている	○		○	○																
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目 第1外国語（総合英語）				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、パーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語											

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <アラビア語>



【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <ペルシア語>

教育目標					1年				2年				3年				4年					
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期		
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全126科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全68科目）												
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー															
					基盤教養教育科目																	
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習 ペルシア語1 ペルシア語2 ペルシア語3 ペルシア語4 ペルシア語5				専攻語科目 2年実習 ペルシア語11 ペルシア語12 ペルシア語13 ペルシア語14 ペルシア語15				専攻語科目演習 ペルシア語Ⅰ ペルシア語Ⅱ ペルシア語Ⅲ ペルシア語Ⅳ ペルシア語Ⅴ				卒業論文				
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基底とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 イラン言語・歴史概論Ⅰ～Ⅱ				専攻科目講義／演習 イラン語学講義 イラン文化講義Ⅰ～Ⅳ ペルシア文学講義 ペルシア語学演習 ペルシア文学演習 イラン文化特別演習												
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																		
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。	○		○	○																		
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目 第1外国語（総合英語）				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シヤン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、バーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語													

- 【色分けの説明】
- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
 - ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
 - ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
 - ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <トルコ語>

教育目標					1年				2年				3年				4年				
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全126科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全69科目）											
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー														
					基盤教養教育科目																
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習		トルコ語1 トルコ語2 トルコ語3 トルコ語4 トルコ語5	専攻語科目 2年実習		トルコ語11 トルコ語12 トルコ語13 トルコ語14 トルコ語15	専攻語科目演習		トルコ語Ⅰ トルコ語Ⅱ トルコ語Ⅲ トルコ語Ⅳ トルコ語Ⅵ トルコ語Ⅶ	卒業論文						
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基底とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 トルコ語学概論				専攻科目講義／演習 トルコ文学講義 トルコ文化講義Ⅰ～Ⅲ トルコ社会講義Ⅰ～Ⅱ トルコ歴史講義 トルコ語学演習 トルコ文学演習 トルコ文化演習 チュルク語学演習											
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。	○		○	○	国際性涵養教育科目 第1外国語（総合英語）				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シヤン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、バーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語											
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○																	

- 【色分けの説明】
- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
 - ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
 - ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
 - ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <スワヒリ語>

教育目標					1年				2年				3年				4年			
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全117科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全59科目）										
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー													
					基盤教養教育科目															
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習		スワヒリ語1 スワヒリ語2 スワヒリ語3 スワヒリ語4 スワヒリ語5		専攻語科目 2年実習		スワヒリ語11 スワヒリ語12 スワヒリ語13 スワヒリ語14 スワヒリ語15		専攻語科目演習		スワヒリ語Ⅰ スワヒリ語Ⅱ スワヒリ語Ⅲ		卒業論文		
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義														
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○	アフリカ地域論概説 アフリカ言語学概説 アフリカ社会論概説										専攻科目講義／演習				
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。	○		○	○											アフリカ言語学講義 アフリカ文学講義 アフリカ文化講義 アフリカ政治経済講義 アフリカ地域講義Ⅰ～Ⅱ スワヒリ語文法演習 スワヒリ語文学演習 アフリカ地域文化演習 西アフリカ諸語演習 アフリカ地域文化特別演習Ⅰ～Ⅲ				
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シヤン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、パーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語										
				第1外国語（総合英語）																

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <ロシア語>

教育目標					1年				2年				3年				4年				
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全124科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全70科目）											
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー														
					基盤教養教育科目																
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習 ロシア語1 ロシア語5 ロシア語2 ロシア語6 ロシア語3 ロシア語4				専攻語科目 2年実習 ロシア語11 ロシア語15 ロシア語12 ロシア語16 ロシア語13 ロシア語14				専攻語科目演習 ロシア語Ⅰ ロシア語Ⅴ ロシア語Ⅹ ロシア語Ⅱ ロシア語Ⅵ ロシア語Ⅹ ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅶ ロシア語Ⅳ ロシア語Ⅷ							
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 ロシア学入門Ⅰ～Ⅱ				専攻科目講義／演習 ロシア語学講義Ⅰ～Ⅱ ロシア文学・芸術講義Ⅰ～Ⅱ ロシア文化歴史講義Ⅰ～Ⅱ ロシア政治経済講義Ⅰ～Ⅱ ロシア語学演習Ⅰ～Ⅱ ロシア文化歴史演習Ⅰ～Ⅱ ロシア政治経済演習Ⅰ～Ⅱ ロシア文学・芸術演習Ⅰ～Ⅱ											
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている	○		○	○																
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目 第1外国語（総合英語）				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、パーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語											

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がっていることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基盤とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <ハンガリー語>

教育目標					1年				2年				3年				4年								
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期					
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全124科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全66科目）															
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー																		
					基盤教養教育科目																				
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習		ハンガリー語1 ハンガリー語2 ハンガリー語3 ハンガリー語4 ハンガリー語5		専攻語科目 2年実習		ハンガリー語11 ハンガリー語12 ハンガリー語13 ハンガリー語14 ハンガリー語15		専攻語科目演習		ハンガリー語Ⅰ ハンガリー語Ⅱ ハンガリー語Ⅲ ハンガリー語Ⅳ ハンガリー語Ⅴ		卒業論文							
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○																				
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																				
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。	○		○	○																				
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○																					
国際性涵養教育科目					兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、バーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語																				
第1外国語（総合英語）																									

- 【色分けの説明】
- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
 - ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
 - ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
 - ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <デンマーク語>

ディプロマ・ポリシーの学習目標

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基盤とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

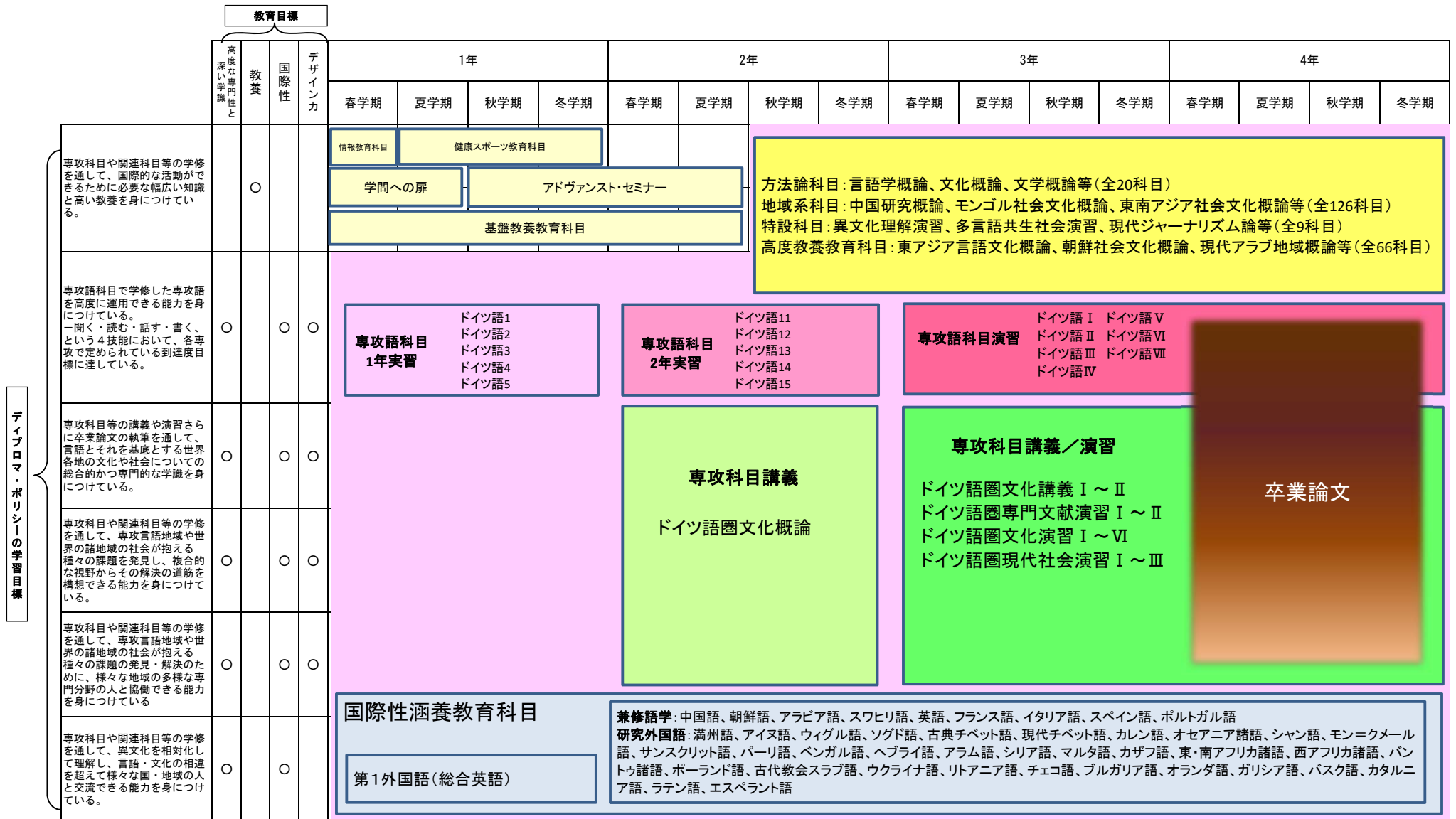
カリキュラムマップ <スウェーデン語>

教育目標					1年				2年				3年				4年					
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期		
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目					方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全123科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全69科目）											
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー															
					基盤教養教育科目																	
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習		スウェーデン語1 スウェーデン語2 スウェーデン語3 スウェーデン語4 スウェーデン語5		専攻語科目 2年実習		スウェーデン語11 スウェーデン語12 スウェーデン語13 スウェーデン語14 スウェーデン語15		専攻語科目演習 スウェーデン語Ⅰ スウェーデン語Ⅵ スウェーデン語Ⅱ スウェーデン語Ⅶ スウェーデン語Ⅳ スウェーデン語Ⅴ				卒業論文				
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 北欧現代社会概説 北欧文学概論 北欧史概説				専攻科目講義／演習 北欧文化講義Ⅰ～Ⅱ 現代デンマーク語演習 現代スウェーデン語演習 デンマーク語学特別演習 デンマーク現代社会特別演習Ⅰ～Ⅱ デンマーク史特別演習 スウェーデン語学特別演習 スウェーデン現代社会特別演習Ⅰ～Ⅱ スウェーデン史特別演習 北欧語学演習Ⅰ～Ⅲ 北欧文学演習Ⅰ 北欧文化演習Ⅰ～Ⅱ 北欧文学特別演習Ⅰ～Ⅱ												
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																	
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。	○		○	○	国際性涵養教育科目 第1外国語（総合英語）				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、バーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語												
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○	○																	

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

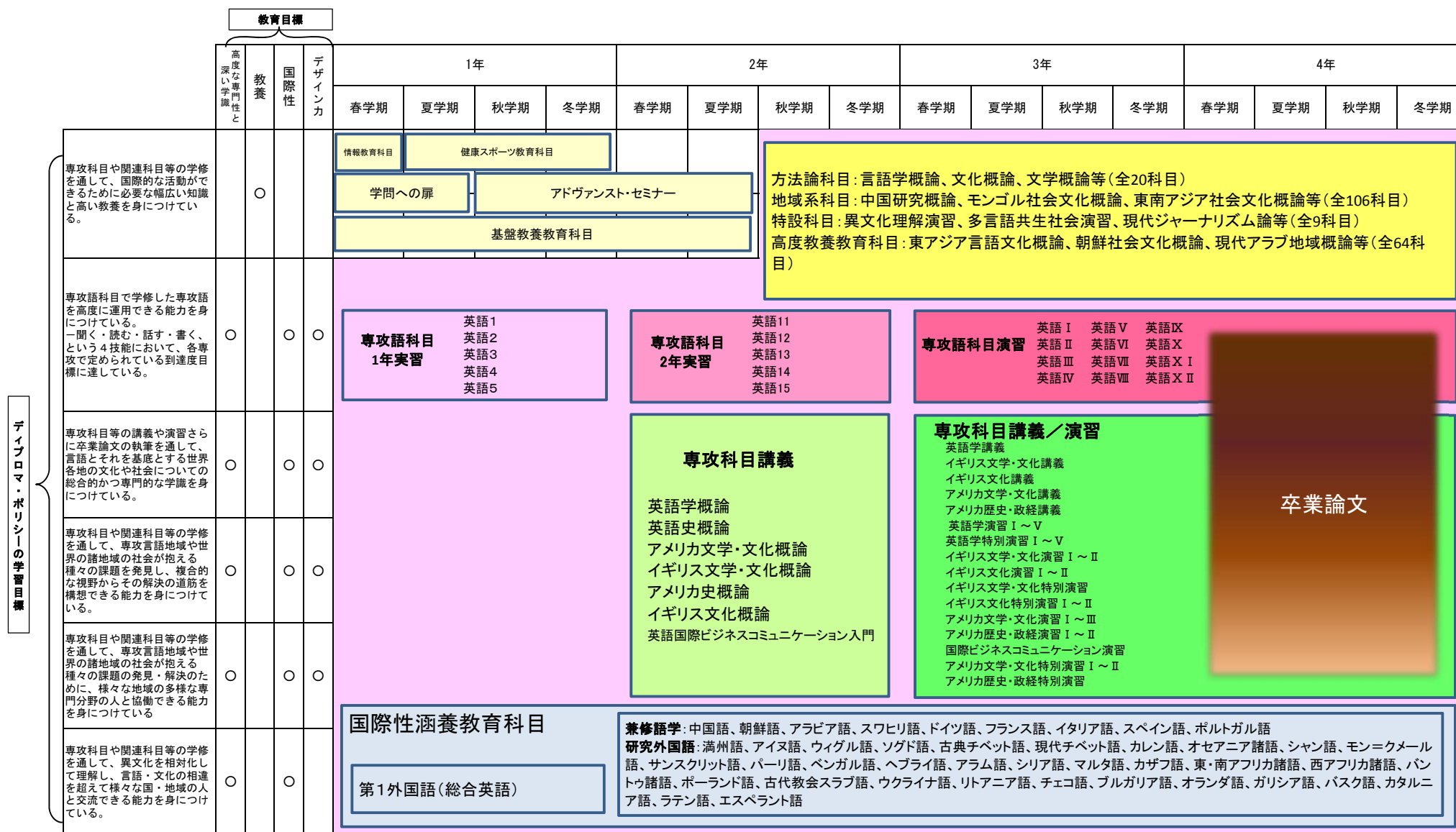
カリキュラムマップ <ドイツ語>



【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がっていることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基盤とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <英語>



【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基盤とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <フランス語>

教育目標					1年				2年				3年				4年							
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期				
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全124科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全70科目）														
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー																	
					基盤教養教育科目																			
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習		フランス語1 フランス語2 フランス語3 フランス語4 フランス語5		専攻語科目 2年実習		フランス語11 フランス語12 フランス語13 フランス語14 フランス語15		専攻語科目演習		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ		卒業論文						
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基底とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○																			
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																				
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。	○		○	○																				
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シヤン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、バーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語															
					第1外国語（総合英語）																			

- 【色分けの説明】
- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
 - ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基盤とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
 - ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
 - ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <イタリア語>

教育目標					1年				2年				3年				4年			
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全126科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全66科目）										
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー													
					基盤教養教育科目															
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習		イタリア語1 イタリア語2 イタリア語3 イタリア語4 イタリア語5		専攻語科目 2年実習		イタリア語11 イタリア語12 イタリア語13 イタリア語14 イタリア語15		専攻語科目演習		イタリア語Ⅰ イタリア語Ⅱ イタリア語Ⅲ イタリア語Ⅳ		卒業論文		
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基底とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 イタリア言語文化概説Ⅰ～Ⅱ		専攻科目講義 イタリア言語文化概説Ⅰ～Ⅱ		専攻科目講義／演習 イタリア語学講義 イタリア文学講義 イタリア歴史講義 イタリア社会講義 イタリア文化講義Ⅰ～Ⅲ イタリア社会演習 イタリア文化演習 イタリア文化特別演習 イタリア語学文学特別演習 イタリア歴史社会特別演習										
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている	○		○	○																
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目							兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シヤン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、バーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語								
					第1外国語（総合英語）															

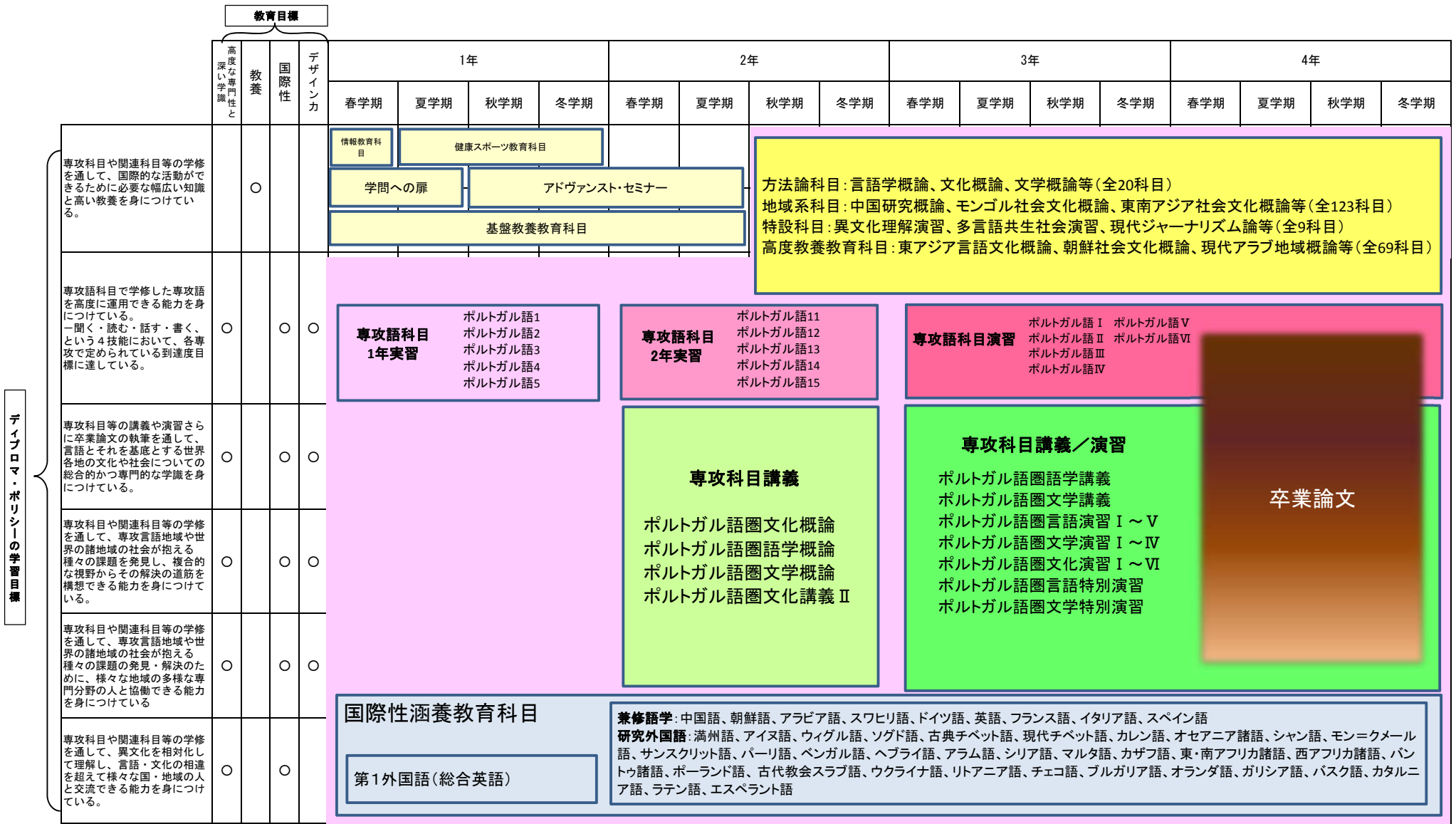
カリキュラムマップ <スペイン語>

教育目標					1年				2年				3年				4年			
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全126科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全68科目）										
専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達度目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習		スペイン語1 スペイン語2 スペイン語3 スペイン語4 スペイン語5		専攻語科目 2年実習		スペイン語11 スペイン語12 スペイン語13 スペイン語14 スペイン語15		専攻語科目演習 スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅴ スペイン語Ⅱ スペイン語Ⅵ スペイン語Ⅲ スペイン語Ⅳ							
専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	卒業論文															
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 スペイン歴史・文化概論 スペイン語学概論 スペイン文学概論															
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義／演習 スペイン語学講義Ⅰ～Ⅱ スペイン文学講義 スペイン歴史・文化講義 スペイン語圏事情講義 スペイン語圏歴史・文化講義 スペイン語学演習Ⅰ～Ⅱ スペイン文学演習Ⅰ～Ⅱ スペイン歴史・文化演習Ⅰ～Ⅱ スペイン語圏歴史・文化演習 スペイン語学特別演習 スペイン文学特別演習 スペイン歴史・文化特別演習															
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目 第1外国語（総合英語）				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シャン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、パーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタロニア語、ラテン語、エスペラント語											

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <ポルトガル語>



【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。

カリキュラムマップ <日本語>

教育目標					1年				2年				3年				4年				
ディプロマ・ポリシーの学習目標	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	
	専攻科目や関連科目等の学修を通して、国際的な活動ができるために必要な幅広い知識と高い教養を身につけている。	○			情報教育科目	健康スポーツ教育科目				方法論科目：言語学概論、文化概論、文学概論等（全20科目） 地域系科目：中国研究概論、モンゴル社会文化概論、東南アジア社会文化概論等（全109科目） 特設科目：異文化理解演習、多言語共生社会演習、現代ジャーナリズム論等（全9科目） 高度教養教育科目：東アジア言語文化概論、朝鮮社会文化概論、現代アラブ地域概論等（全54科目）											
					学問への扉		アドヴァンスト・セミナー														
					基盤教養教育科目																
	専攻語科目で学修した専攻語を高度に運用できる能力を身につけている。 一聞く・読む・話す・書く、という4技能において、各専攻で定められている到達目標に達している。	○		○	○	専攻語科目 1年実習		日本語1 日本語2 日本語3 日本語4 日本語5	専攻語科目 2年実習		日本語11 日本語12 日本語13 日本語14 日本語15	専攻語科目演習		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ	卒業論文						
	専攻科目等の講義や演習さらに卒業論文の執筆を通して、言語とそれを基底とする世界各地の文化や社会についての総合的かつ専門的な学識を身につけている。	○		○	○	専攻科目講義 日本語教育学概論 対照言語学概論 日本語学概論 言語学概論 日本文化学概論 日本語学講義Ⅰ、Ⅱ 日本文化学講義Ⅱ、Ⅲ 日本語教育学講義Ⅰ～Ⅲ（Ⅱbを除く） 言語学講義					専攻科目講義／演習 日本語学講義Ⅲ 日本文化学講義Ⅰ 日本語教育学講義Ⅱb 漢文学 日本文学史 日本語学演習Ⅰ～Ⅱ 日本文化学演習Ⅰ～Ⅳ 日本語教育学演習 日本事情演習 日本語教育学特別演習Ⅰ～Ⅱ 言語学演習 書道 日本語教育実習										
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題を発見し、複合的な視野からその解決の道筋を構想できる能力を身につけている。	○		○	○																	
専攻科目や関連科目等の学修を通して、専攻言語地域や世界の諸地域の社会が抱える種々の課題の発見・解決のために、様々な地域の多様な専門分野の人と協働できる能力を身につけている	○		○	○																	
専攻科目や関連科目等の学修を通して、異文化を相対化して理解し、言語・文化の相違を超えて様々な国・地域の人と交流できる能力を身につけている。	○		○		国際性涵養教育科目				兼修語学：中国語、朝鮮語、アラビア語、スワヒリ語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語 研究外国語：満州語、アイヌ語、ウイグル語、ソグド語、古典チベット語、現代チベット語、カレン語、オセアニア諸語、シヤン語、モン＝クメール語、サンスクリット語、パーリ語、ベンガル語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、マルタ語、カザフ語、東・南アフリカ諸語、西アフリカ諸語、バントゥ諸語、ポーランド語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、リトアニア語、チェコ語、ブルガリア語、オランダ語、ガリシア語、バスク語、カタルニア語、ラテン語、エスペラント語												
					第1外国語（総合英語）																

【色分けの説明】

- ・専攻語（1年実習）→専攻語（2年実習）→専攻語（演習）になるにつれてピンク色が濃くなっていますが、これは難易度が上がることを示しています。
- ・専攻語（1年実習）の色である薄いピンク色が共通教育科目（情報教育、健康スポーツ、学問への扉、アドヴァンスト・セミナー、基盤教養）を除くすべての科目のベースの色にもなっていますが、これは、「言語を基底とした地域研究を行う」ことを標榜している外国語学部において、全ての学問の基礎になっているのが1年次の専攻語実習であることを意味しています。
- ・専攻科目講義→専攻科目講義・演習になるにつれて緑色が濃くなっていますが、これはそれぞれの分野での学びがより深くなることを示しています。
- ・卒業論文は4年次での1年間を費やして仕上げます。専攻語科目および専攻科目講義・演習で学んできたことの集大成であることから、全てにまたがった形で図示しています。